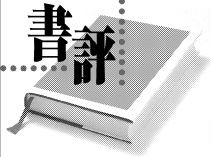


書評



武田雅俊, 加藤 敏, 神庭重信 著

Advanced Psychiatry 脳と心の精神医学

大森健一

現代社会の変化・進展は実にめまぐるしく目を見張る思いである。科学の進歩はこの人間社会にさまざまな利便をもたらし、生活は 50 年前と比較すると想像もできないほどの豊かなものとなった。しかしこのような状況の下で、いやむしろこのような状況下でこそ人々の生き方は、あるいは人間関係は、さらには心のありようは、複雑・困難なものとなり、混乱と混迷を来している。したがって心を病む人々も増加し、国民の精神医療に対する要請・期待が高まっている。

また一方で、私が精神科医としてその第一歩を踏み出した 40 年前の頃とは、精神疾患の病態もその背景の社会・文化生活を反映して、その中核は別として、辺縁の拡大と多様化が著しい。このような状況の中で、現代の新しい精神科臨床を解説するまとまった著書を多くの精神科医が期待している。

このたび出版された本書は精神科の専門医を対象とした教科書であり、この現在の状況下で日々の精神医療に苦労を重ねている多くの精神科医の期待に応えてくれる労作であることを、一読して実感した。

それはまず、精神医学の最新の状況・知見が積極的に盛り込まれていることである。確かに精神科の臨床はこの 20 年間に大きく変化した。その変化は、脳機能を検索する神経科学、遺伝子科学、画像診断の進歩は画期的であり、それらが診断・治療にいち早く導入されたこと、また DSM の導入による操作的診断基準の普及などに代表されよう。本書はその状況を的確にと

らえて、記述が進められている。前書きに、2000 年から 2005 年までの代表的な精神医学雑誌に掲載された重要な論文は本書に盛り込まれたと述べられていることから、それが十分うかがえる。

本書が、総論、不安障害、身体表現性障害、気分障害、統合失調症、リハビリテーション、病跡学—創造性と精神の逸脱の 7 章からなることから推察できるように、精神科臨床で特に重要な位置を占める統合失調症、気分障害、不安障害を中心にそれぞれ 3 人の著者が分担して記述している。著者の 3 人ともわが国精神医学でのさまざまな領域で、先進的研究者であると同時に指導的役割を担っている精神科医であるが、その専門領域を反映した先端的記述とともに、病態の発生・病像・経過・治療に生物学的・心理学的・社会学的接近が詳述されており、日頃の著者たちと親しい私には新しい発見であると同時にきわめて興味深く、教えられることが多々あった。器質性精神障害などを含む第 2 版の待たれるところである。

すでに出版されている「専門医をめざす人の精神医学」を卒業されて専門医になられた先生方にも、また経験を積まれた年輩の先生方にも一読をお勧めしたい、自己の臨床の営為を深めるに役立つ著作であると考ええる。

(獨協医科大学名誉教授・滝澤病院)

● A5 435頁 2007 定価7,140円(本体6,800円+税) 金芳堂